助産師教育

NEWS LETTER

公益社団法人
全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education
No.95 2023. 10. 1

助産師教育のあるべき姿に向かって
― 会長挨拶 ―

公益社団法人全国助産師教育協議会　会長
徳島大学大学院　　**葉　久　真　理**

2023年度の定時社員総会において、2023－2024年度全国助産師教育協議会会長を拝命いたしました。私は、徳島大学において、医学部附属助産婦学校、医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻、大学学部での選択制による助産師教育、大学助産学専攻科、そして大学院２年間での助産実践コースと様々な課程で助産師教育に携わってきました。あと数年、徳島という地方で自身の助産師教育最終章の仕上げをと思っておりましたが、本協議会の会長としての更なる活動に身を引き締めて取り組む決意をしたところです。機関校／会員皆様の現状を把握し、課題解決に向けて迅速な対応を図りつつ、助産師教育のあるべき姿に向かって邁進していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

本協議会は、先輩諸姉の助産師教育への深い熱意と多大なご尽力のもと、多くの助産教員が知恵と時間をかけて築き、再構築し、そして新たな改革へと時代の変化を見据えて改革前進してきました。地区活動、委員会活動、そして理事会活動に、機関校／会員皆が関わり、助産師教育のあるべき姿に向かって歩んでいます。その歩みの根本となる定款には、全国の助産師教育の向上と発展を図り、これにより女性・母子とその家族及び社会に貢献することを目的として、８つの目的事業を掲げています。また、少子社会の中で、産後うつや子ども虐待相談対応件数の増加など、妊娠・出産・子育て等をめぐる問題・課題は山積し、助産師教育の重要性が一層問われている現在、本協議会の今後５年間の方向性を示した『助産師教育における将来ビジョン2021 ～持続可能な助産師教育の実現に向けて～』では、４つのビジョンが提示されています。2023年度は、本ビジョンの中間地点となります。助産専門職としての知識と技術、強い使命感と責任感、高い倫理観ある助産師育成のために助産師教育はどうあるべきか、教育能力の高い教員・臨床指導者の育成はどうあるべきか、社会の潮流を見据えつつ、ビジョンの実現に向けて取り組んで参ります。

また、本協議会では、「助産師教育のコア内容におけるミニマム・リクワィアメンツ（2009初版、2021改訂）」をはじめ、「望ましい助産師教育のコア・カリキュラム2020年版」カリキュラムモデル（2022）等を提示してきました。刻々と変化する社会情勢の中で、これらを活用し、評価し、改定していくPDCAサイクルを回し、将来を見据え、未来を牽引する助産師教育の充実を図っていきます。

皆様のご指導・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

扉…… 1
教育・活動報告 …… 2
ニュース …… 4
わかばの部屋 …… 5
全助協からのお知らせ …… 6
トピック …… 7
理事会報告 …… 10

第48回　全国助産師教育協議会　全国研修会報告
テーマ「DX社会での教育の未来と助産ケア」

近畿地区
奈良県立医科大学大学院　看護学研究科　**五十嵐　稔　子**

第48回全国研修会は、令和５年２月25日（土）～３月12日（日）の16日間のオンデマンド研修としました。研修会内容は、IT技術などを活用した助産実践や教育について学び、また周産期医療が高度化・複雑化する中で、助産師の役割やケアの必要性を改めて考える講演を企画しました。さらに今回、地区研修会で好評であった東京地区および近畿地区の研修会の動画も提供して頂き、充実した内容となりました。

１．講演テーマと講師の概要

講演１	不妊治療を選択する女性・家族の理解と助産師に求めるケア	奈良県立医科大学　木村　文則先生
講演２	ポスト・コロナ時代の教育	大阪大学　佐藤　浩章先生
講演３	オンライン助産師相談	聖路加看護大学　片岡弥恵子先生
講演４	MR活用による技術演習の実践と将来の展望	京都光華女子大学　徳永基与子先生
講演５	オンラインを活用した助産師活動の実際	土屋産婦人科　岩田　敦子先生
講演６	コロナ禍の妊産褥婦の現状：感染妊産婦への対応（東京地区研修会）	国立国際医療研究センター産婦人科　大石　元先生
講演７	助産実習をふまえた教育現場での感染対策（東京地区研修会）	国立看護大学校 感染看護学　西岡みどり先生
講演８	出生前遺伝学的検査をめぐる助産ケアを担う助産師をどう育てるか（近畿地区研修会）	信州大学医学部保健学科　中込さと子先生

２．研修会受講状況

参加者数は、会員290名、非会員57名、学生11名。全ての講演で、最後まで視聴した受講率は、50～60％でした。

３．アンケートの感想

意見の多かった記載は、講演１「不妊治療を受ける対象の助産師としての支援の視点がわかりやすかった。」講演２「対面可能後に授業方法をそのまま戻すのではなく、ポスト･コロナで得たものを調整することが必要。」講演３「コロナ禍での東京都助産師会の活動の速さに驚いた。都とタイアップした活動も興味深かった。」講演４「MRを使用することで多くの事例が学べる可能性を感じた。」講演５「Z世代の意識、生活パターン等を考えると、オンラインの活用は、助産師活動をより拡大していけるものだと思う。」でした。

研修会の全体については、研修会の時期について、早い０名（０％）、適切35名（87.5%）、遅い５名（12.5％）、参加費について安い９名（22.5％）、適切31名（77.5％）、高い０名（０％）でした。また多くの学びがあったとのご感想を頂いたとともに、「途中で中断すると、翌日は最初から見なければならなかった。」「年度末の多忙な時期であり、配信期間を長くしてほしい。」などのご意見を頂き、課題が残りました。最後になりましたが、講師の先生方、参加者の皆様のご協力をいただき、無事に開催できましたことを厚く御礼申し上げます。

Webマガジン
Will Friends
～看護職・看護学生の生活全般をサポート～
Will Friends
Web会員登録
はコチラ▶
Will Friends
「Will Friends」の登録会員限定のプレゼントキャンペーンも随時実施していますので、
ぜひ会員登録（無料）をして、皆さまの生活をより充実した日々にしていただければ幸いです。
Will Friends 運営団体：一般社団法人日本看護学校協議会共済会　TEL：0120-541713（9:00～17:00土日祝日除く）

2023年度　第14回（通算59回）
公益社団法人　全国助産師教育協議会定時社員総会報告

2021－2022年度　全国助産師教育協議会副会長
徳島大学大学院　　**葉　久　真　理**

新型コロナウイルス感染症に翻弄された３年間を振り返りみて、あの歴史的緊急事態は何だったのだろうかと感じる今日この頃です。しかし、助産師教育においては、教育時間／手段を奪われ、学生への影響は大きかったと痛感しています。さて、今回の総会は、ICM３年毎大会が、６月11日～14日までバリ（インドネシア）で開催されたことから、帰国後の慌ただしい中での対面による現地開催を避け、昨年に引き続きオンラインで開催させていただきました。皆様のご協力のもと、2023年６月17日（土）・18日（日）に第14回（通算59回）定時社員総会および研修会を開催／終了することができました。ありがとうございました。以下、総会、研修会の概要を報告いたします。

６月17日（土）の総会では、議長には五十嵐稔子氏（奈良県立医科大学大学院）、議事録署名人には近藤祥子氏（北海道大学大学院）、江藤宏美氏（長崎大学大学院）が選任されました。昨年度同様、議決権行使書面による開催とし、正会員総数340名中228名から議決権行使書が提出され、定款第30条に基づき総会が成立していることを確認し開催いたしました。

まず、村上会長から、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、教育方法の多様な工夫のもと、教育の質保証にご尽力いただいたことへの感謝が述べられました。助産師教育では、出生数が過去最低を更新する中、多様な課題を抱えており、教育の質の維持向上を目指しこれからも社会の動向に柔軟に対応していくことが求められていることから、本日の総会では本協議会の事業活動を共有し今後の進むべき方向性を確認したいこと、また本年は役員改選の年であり、新役員になっても本協議会の事業が円滑に推進していけるよう、引き続きご協力いただきたいとの挨拶がありました。

続いて、2022年度の事業報告と収支決算および監査報告、規程の一部改正、役員改選の４つの決議事項について承認されました。地区別打ち合わせ会の後、教育課程別検討会では、［With/Afterコロナにおける助産技術の習得－学生のレディネスの課題を踏まえて－］について、各校の現状と様々な取り組み／工夫が聞かれました。最後に、組織強化委員会より、［「助産師教員キャリアラダー」に基づく教育力保証のためのキャリアラダー認証制度に関する調査報告］の説明があり、今後制度構築に取り組んでいくことが報告されました。

６月18日（日）の研修会では、303名の参加のもと、文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官渡邉美和様から、［看護系大学の現状と課題～助産師教育の動向を含めて～］と題してご講演いただきました。分娩取り扱い回数では、2022年度においても前年度と同様に、特例的なカウントにより到達目標を達成した現状が示され、10回程度の介助ができなかった理由としてCovid-19による実習場所や期間の減少と共に分娩数の減少が報告されていました。厚生労働省医政局看護課課長補佐 初村恵様からは、［看護行政の動向と助産師教育への期待］、今年４月に新設された子ども家庭庁成育局母子保健課母子保健指導専門官 内田愛子様からは［母子保健の動向と助産師の役割］についてご講演いただきました。次に、天使大学理事の近藤潤子先生から、叙勲（旭日中綬章）受章記念講演「全国助産師教育協議会のあゆみと今後への期待」と題してご講演いただきました。助産師教育の現状と課題の共通理解のもと、助産師教育は今後どうあるべきかを考えるための示唆をいただきました。続いて教育検討委員会礒山あけみ委員長から、［２年間教育で実施する「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム2020年版」カリキュラムモデルの提示］について説明いただきました。また、日本助産評価機構江藤宏美理事から、［助産教育の質保証と分野別評価の必要性について］、2022年度受審校である神戸市看護大学大学院高田昌代氏から、受審を進めるための方略をはじめ受審の意義について説明いただきました。最後に、渡邊浩子副会長が閉会の挨拶を述べ終了いたしました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

国がすすめるタスク・シフト/シェアの推進と助産師

日本看護協会　常任理事
井　本　寛　子

わが国における院内助産・助産師外来の推進は、「安心と希望の医療確保ビジョン」(厚生労働省）で、「職種間の協働やチーム医療の充実において、院内助産・助産師外来の推進」が明記され、「院内助産ガイドライン」が作成された2008年に遡り、約15年余りが経過している。

近年は、国が進める「働き方改革」において、医師の業務負担が課題とされており、2024年４月の医師の時間外上限規制の施行に向けた議論がとりまとめられた、「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会 議論の整理」において、現行制度の下で実施可能な業務のうち特に推進するものとして、助産師には「院内助産・助産師外来」が明記された。

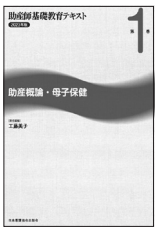
この理由は、産婦人科は、他の診療科と比較して、医師の勤務時間が長いことが調査により明らかとなったことがある。一方で、ハイリスク妊産婦の増加により、医療介入を必要とする妊産婦が増加していることから、助産師が妊産婦の状態を的確に判断する実践能力を身につけ、ケアに責任をもつ院内助産・助産師外来の推進は、医師がよりハイリスクな対象に専念することを可能にする。また、助産師と医師が、それぞれの専門性を活かしながら役割分担し、連携・協働することで、チーム医療が促進され、効率的な医療提供体制の実現につながるとともに、医師の負担軽減が図られることが期待されるのである。

しかし、院内助産・助産師外来の開設数は、2017年以降、横ばいであり、院内助産については実施割合が２割にも満たず、普及が必要である。2020年に日本看護協会（以下本会）が実施した調査からは、院内助産の普及の障壁の１つに院内助産の定義に関する誤解があげられた。その誤解とは、「院内助産が『医師の立会いをしない分娩管理』だ」等である。他方で、本会の実施した別の調査において、正常分娩における助産師の裁量と判断の実態からみると、院内助産の定義に沿った助産師主導ケアは提供されていることがわかっていることから、院内助産の推進は可能である。

また、昨年の10月に開催された第155回社会保障審議会医療保険部会において、「医療機関で受けられる出産に関わる分娩サービスについて、出産場所を選ぶ際に妊産婦が考える優先度は、『院内助産が可能』がもっとも高く26.6％であった。」ことも報告されていることから、院内助産に対する妊産婦の関心度もうかがえる。

以上から、助産師は、病院において医師と連携し助産師外来・院内助産を開設することで専門性を発揮することがより一層求められている。さらに言えば、「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」には女性の健康増進等、助産師にはさらなる専門性の発揮が求められている。以上のような国の動きを、助産師の専門性の発揮の機会に是非繋げて欲しい。

助産師基礎教育テキスト 2024年版 B5判



※改訂巻以外は
2024年1月刊行予定

第1巻 助産概論・母子保健
責任編集 工藤美子
頁数未定・定価未定

第2巻 ウィメンズヘルスケア 改訂
責任編集 吉沢豊予子　2023年10月刊行予定
頁数未定・定価未定

第3巻 助産サービス管理 改訂
責任編集 成田　伸　2023年10月刊行予定
頁数未定・定価未定

第4巻 妊娠期の診断とケア
責任編集 森　恵美
頁数未定・定価未定

第5巻 分娩期の診断とケア
責任編集 佐々木くみ子
頁数未定・定価未定

第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア
責任編集 江藤宏美
頁数未定・定価未定

第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
責任編集 小林康江
頁数未定・定価未定

新版 助産師業務要覧 第4版 2024年版
編集 福井トシ子・井本寛子
※2023年10月刊行予定

教育・臨床現場や社会情勢の変化に鑑み、全面リニューアル。
読者の立場（学習者、実践者、管理者）に応じ、
それぞれが必要とする内容に特化した巻構成

Ⅰ 基礎編 主に助産学生が対象
B5判　頁数未定　定価未定
助産業務の根拠となる関連法規や各団体の文書に基づき、基本的知識を解説

Ⅱ 実践編 主に臨床助産師が対象
B5判　頁数未定　定価未定
「助産師のコア・コンピテンシー」を構成する４つの能力を軸に、女性のライフステージ全般を見すえた助産実践に重点を置いて解説

Ⅲ アドバンス編 「アドバンス助産師」、中堅的・管理的立場が対象
B5判　頁数未定　定価未定
より高度な助産実践を展開するために必要な、マネジメントや政策の視点を紹介

日本看護協会出版会
〒112-0014 東京都文京区関口２-３-１
(営業部) TEL.03-5319-8018　FAX.03-5319-7213
https://www.jnapc.co.jp

コールセンター(ご注文に関するお問い合わせ)
TEL.0436-23-3271　FAX.0436-23-3272

母校での助産師教育に携わって

帝京平成大学
助産別科　助手　　古　岩　　翠

私は大学病院での臨床経験を経て、現在母校の助産別科で助産師教育に携わっています。ベテランの先生方のご指導を受ける身でありながらも、同じ教員という立場で学生と関わることは、臨床教育を行っている時とは違う緊張感を感じています。そして自分自身の基礎・基本知識のアップデート不足や教育的視点の違いなど、様々な場面で至らなさを実感する日々です。自身の課題をあげはじめたらきりがないため、初めて携わる「学校」での教育について率直な思いをお伝えします。

助産別科は１年課程であり、看護師資格を有する者が入学してきます。そのため学生達の年齢や学歴、助産別科入学までの経歴も年度によって異なることが特色の一つです。今年度は数名の臨床経験者、ママさん学生を含めた22名が在籍しています。23科目34単位のうち、前期でほとんどの科目の講義が終わり、後期は臨地実習が大半を占めているため、実習が終わるとすぐに国家試験へのカウントダウンが始まります。

私が主に携わっているのは演習と臨地実習です。演習では、教科書的な基礎や基本を大前提としながらも、より臨床現場に即した演習内容を学習させる難しさを感じました。これまでも「学校と臨床は違う」と感じることはしばしばありましたが、科目担当の先生方は基本をしっかり押さえながら臨床との乖離が大きくならないよう、随所に創意工夫を練りこんでいます。加えて、学生の人数の多さや環境・教材・人材共に制約もあり、臨床現場で行っていたシミュレーション教育とは比べものにならないくらい計画と準備が必要です。

臨地実習では、私が学生の頃から変わらぬ分娩介助件数のハードルが、近年の出生数の減少も相まって高い壁のようになっています。実習病院でも分娩件数の減少や対象妊産婦のハイリスク化、無痛分娩の需要の高まりなどを耳にする機会が多く、今後も学生のレベルに適した対象はどんどん少なくなっていくのかもしれません。人口の変化だけでなく、世間が求める助産師の役割の変化や狭まりが垣間見え、学校としてどのような助産師像を目指し教育をしていくのがよいのか、時代の変化と需要も取り入れていく必要があるように感じています。

学生個々の志や努力が無ければ助産別科の１年間は乗り越えてはいけません。ですがこの１年間を多方面から考え・支えてくれる教員がいるからこそ得られていた経験があったことも、勤めてみなければわからない「学校」での教育の一面でした。この場を借りて、当時の先生方へ御礼申し上げます。

助産師としても、教員としても、まだまだ自己研鑽が必要な私ですが、学生達としっかり向き合いながら、助産師教育を深めていきたいと思います。

◆医学書院　関連書籍のご案内　　QRコードから書籍の詳細がご覧いただけます

◎少子化の現況下、激動の真っ只中にある生殖医療の定本、待望の第2版

生殖医療 ポケットマニュアル 第2版

監修　吉村泰典
編集　大須賀 穣・京野廣一・久慈直昭・辰巳賢一・市川智彦

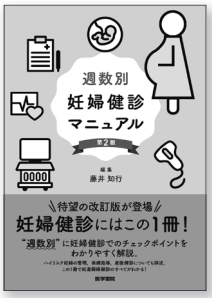
●B6変型　2022年　頁520
定価：5,500円（税込）
[ISBN978-4-260-04868-2]

◎妊婦健診でチェックすべき内容を週数別に解説。
ハイリスク妊婦の管理や保健指導も網羅

週数別 妊婦健診マニュアル 第2版

編集　藤井知行

●B5　2021年　頁440
定価：9,900円（税込）
[ISBN978-4-260-04794-4]



医学書院　〒113-8719　東京都文京区本郷1-28-23　https://www.igaku-shoin.co.jp　［販売・PR部］　TEL:03-3817-5650　FAX:03-3815-7804　E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

第15回（通算60回）公益社団法人全国助産師教育協議会 定時社員総会開催のお知らせ

日　　程：2024年６月15日（土）～16日（日）予定
方　　法・担当校他：詳細未定
＊詳細は、追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

****

第49回全国助産師教育協議会研修会のお知らせ

日　　程：2024年２月および３月を予定
方　　法：WEB開催（オンデマンド配信）
テ ー マ：助産師を取り巻く環境の多様性
担当地区：九州・沖縄地区
担 当 校：遠賀中央看護助産学校
協 力 校：九州大学大学院，第一薬科大学，帝京大学福岡医療技術学部，
日本赤十字九州国際看護大学，福岡水巻看護助産学校，
宮崎大学大学院
内容等、詳細は追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

【担当校から】

この３年あまりCOVID-19感染症の影響を大きく受けましたが、助産師教育では様々な教育方法の工夫をおこないながら、教育の質の担保を図るためにご苦労されてこられたことと思います。助産師のケアの対象がコロナ禍で様々な制限を受け、その状況に応じた助産ケア実践の必要性を感じる期間でした。私たちが活動をする中で、助産師の活動場の広がりや社会情勢の変化など、取り巻く環境は多く変わりました。

そこで、それらの点に着目し、『多様性』に応じた助産師のあり方について考える機会になればとテーマを決定しました。『多様性』から様々なキーワードをあげ、幅広い視点の内容を皆さまに提供できるよう、そして多くの方にご参加いただけるよう準備をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

私たちは、働くあなたを
「眠り」で支えます。

東洋羽毛について
詳しくはこちらをご覧ください

TUK 東洋羽毛工業株式会社 〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺2-26-5　お客様相談室 フリーコール 0120-410840

センター長就任のご挨拶

助産師教育研修研究センター
センター長　　村　上　明　美

2023年６月に開催された全国助産師教育協議会社員総会後より、助産師教育研修研究センター（以下センター）のセンター長に就任することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

当センターは2013年に設置され、助産学担当教員や助産実習の臨床指導者を対象とした研修等を展開しております。

これまでセンター長は、本協議会会長も務められた平澤美恵子先生（元日本赤十字看護大学教授）が担われており、センター設置当初から10年にわたり研修事業を牽引されてきました。今回、平澤先生の任期が満了し、若輩ながら私が後を引き継ぐことになりました。平澤先生には、これまでご尽力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

現在、センターが展開している常設的な研修は、以下の３つです。

１）ファーストステージ研修：助産師教育に携わる教員や臨床指導者が助産実践力を基盤に、助産観と教育観に裏付けられた基本的な教育力を養う研修

２）セカンドステージ研修：助産師教育においてリーダーシップを発揮するために，助産観と教育観に裏付けられた教育力をさらに発展させて養うアドバンスの研修

３）実習指導者講習会（特定分野：助産）：教育の原理原則を知り、効果的な実習指導を行う基本的な能力を身につけることを目的とした研修（修了者に厚生労働省認定「特定分野における保健師助産師看護師実習指導者講習会修了証」を発行）

就任に際し、研修に関する過去の資料等を見直したところ、運営上のいくつかの課題が確認されました。昨年度更新された助産師教員ラダーとファーストステージ研修・セカンドステージ研修の内容のすり合わせが十分ではないことや、COVID-19の影響も大きいと思われますが、受講生確保が一定化されていないことなどです。

すぐに解決できない課題もありますが、センター長として上記の課題解決に向けて取り組んでまいります。今後、教員や臨床指導者の一層の教育力向上に資することができますよう、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

SDGs・人口減少社会における麻酔分娩と助産師の役割

立教大学大学院講師・社会デザイン学会副会長
菊　地　　栄

今年６月、バリ島で開催されたICMの会場で、ちらほら男性の姿を見かけた。多くはアフリカからの参加者だったが、フランスから来た男性助産師たちもいた。フランスでは麻酔分娩がおよそ８割。その状況下で助産師の役割は？と尋ねると、「助産師がケアすることによって帝王切開率が確実に低下する」と胸を張って答えてくれた。女性たちがどのような選択をしても、助産師のケアが医療介入を軽減し、満足度を高めると確信しているのだろう。日本でも麻酔分娩へのニーズが高まる中、助産師はその状況をどのように捉えればいいだろうか。

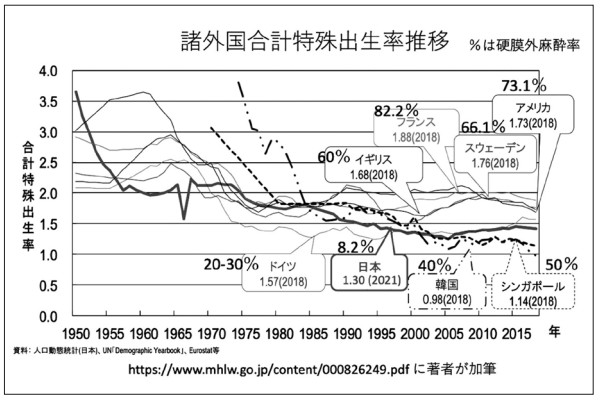
厚生労働省が2020年に発表した調査によると無痛（麻酔）分娩の実施率は、病院9.4％、診療所 7.6％と過去の割合と比べ増加しているものの、欧米やアジア諸国に比べるとかなり少ない。これまで日本で麻酔分娩が広がってこなかった要因は、ジェンダーギャップによって女性の痛みが注目されにくかったこと、診療所が多く麻酔医が配置しにくかったことなどが挙げられてきた。

コロナ禍の３年間で麻酔分娩はさらに増加したと伝えられているが、その背景にはJALA（無痛分娩関係学会・団体連絡協議）の発足がある。JALA は2017年に起きた麻酔分娩による医療事故を受けて、学会や医会など関連団体が調査を実施し、2019年３月に設立された。医師への産科麻酔講習会などと並行して、厚労省のホームページに麻酔分娩実施施設の情報が公開された。JALA は硬膜外麻酔のリスクを一般向けに伝えてはいるものの、コロナ禍で孤独

な出産環境にあった女性たちにとって「無痛分娩」という謳い文句は、魅力的に映ったのではないだろうか。

SDGsは次世代誕生を前提としている。そもそも赤ちゃんが生まれてこなければ、未来社会そのものが立ち行かなくなってしまう。興味深いことに日本より出生率が高い欧州の国々は、麻酔分娩率が高い傾向にある（図）。これは麻酔分娩が出生率を押し上げたのではなく、女性のニーズを汲み上げて出産ケアを行い、育児関連に予算をとっている国々、すなわち女性と子どもに優しい、ジェンダー指数の高い国で出生率が下がっていないことを示している。

妊娠出産は言うまでもなく、女性身体に限定されたジェンダー・イシューだ。それを守る助産師もまた「女性性」に裏付けされた揺るぎない世界観の中に存在する。議論すべきは、産科麻酔や男性助産師の是非ではなく、助産師は何を死守すべきかという点にある。男性原理の西洋医学と資本主義によって管理されてきた出産領域を、これ以上壊されることがないように、助産師は戦略を練り、連帯しなければならない。環境保全や人権を課題としてあげるSDGsの視点に立てば、リプロダクションにおいても科学技術で身体を開発・管理する医学モデルではなく、女性性を尊重する助産ケアこそ、持続可能な社会への希望となる。助産ケアはAIにとって代わられることのない職能なのだから。



助産師国家試験プール問題作成・登録協力活動

2022年度　活動報告

資格・専門能力委員会委員長
西南女学院大学　**杉　浦　絹　子**

2004年に開始されたプール問題公募事業では助産師国家試験問題の登録数が低迷していため、2017年度に本委員会はプール問題公募の啓発・応募促進事業に着手いたしました。2021年度までに総会、全国研修会、地区研修会で問題作成・登録方法に関する研修を実施し、2022年度には実質的な成果を出すべく本活動を開始いたしました。各地区から推薦された協力員35名が６月の総会以後の半年間に、理事・委員のファシリテーションの下、１Ｇ３～４名のメンバーで５回のグループワークを実施した結果、174件もの問題が登録されました。事後アンケートには「メンバーの意見により問題の焦点の当て方、解答の視点などを発展させることができた」「先生方の助産観や教育観を知ることができた」「メンバーから意見をもらい、国試問題を考慮した実習指導に繋げることができている」といった記述があり、地区・課程・職位を超えた助産師教員間の貴重な交流の場となっていたことが窺われます。今年度も35名の協力員を迎え、本活動が始まりました。多くの良問が登録されるよう、鋭意活動を進めてまいります。

国家試験プール問題作成・登録を経験して

北海道大学大学院保健科学研究院　准教授
近　藤　祥　子

告白いたしますと、私は、国家試験プール問題に個人で登録しようとし挫折した経験があります。今回、グループで取り組んだことで、思いの外楽しく学び多い機会となりました。

私たちは、近藤、岡山大学　弘中藍子先生、摂南大学　永田阿子先生の３名に、大阪大学　渡邊浩子先生がファシリテータとして加わった４名で活動しました。それぞれの実習期間がパズルのように組み合わさっており、当初会議時間の捻出に苦労しましたが、結果としては月１回のペースで計４回の会議を開くことができ、状況設定問題９題と一般問題10題を作成しました。

第１回目の会議では午後いっぱい４時間ほど頑張ったにも関わらず２問を吟味することが精一杯でしたが、最後はコツを掴み、２時間で３問程度の状況設定問題を作問することができました。難しかったのは、自分たちの臨床経験からか、業務遂行上知って欲しいことをテーマにしたり、少し捻った問題を作りがちなことでした。その度にお互いに「何を問いたいのか」ということを問い掛け合いまし

た。それは、これから国家資格を持つ学生に「何を理解していて欲しいのか」ということを突き詰めて蒸留していく作業でした。また、助産師としての業務を逸脱していないか（疾病の診断や説明を含んでいないか）という部分も難しく、助産師業務が今や異常の発見やケアと切り離せないことを意味しているように感じました。今回のグループワーク作問にあたっては、常に出題基準との首っ引きでした。基準の細かいところまで見直し、意味するところを熟考する中で、日々の教育への示唆を得ることが多かったと感じています。

今回、新たなご縁があったこと、日頃の教育への悩みを共有できたこと、自分の教育理念や実践を振り返ることができたことがなによりの収穫でした。本事業が問題のプールに留まらず教員同士の連携も含めて、助産教育の底上げに繋がればと祈念しております。本事業に種々ご尽力されておられる先生方、ご一緒させていただきました先生方本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

『問題登録が遷延するリスク状態』の協力員が得たもの

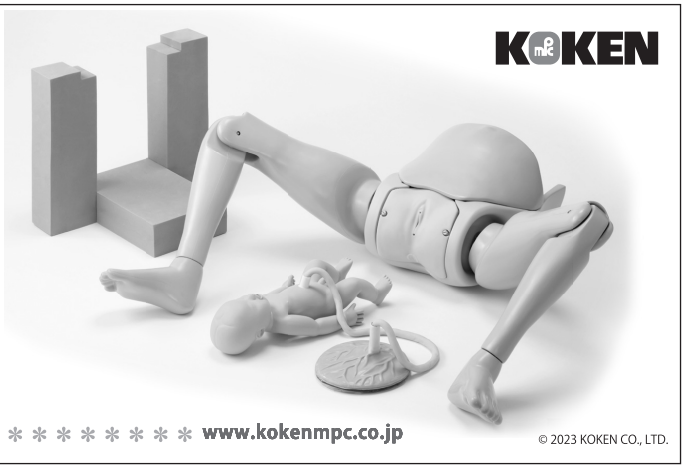
青森中央学院大学　別科助産専攻　助教
丸　山　夏　弥

私は、本専攻開設時から５年間国家試験対策を担当しています。学生が安心して合格を得るためには、過去に出題の少ない出題基準の中項目の学習強化が重要と考えながら、自分で問題を作成することに難しさを感じていました。そこで、協力員活動への参加は好機と考えチャレンジすることにいたしました。しかし、作成にとりかかるとすぐにアイデアは枯渇し、分娩介助練習で児娩出に奮闘している学生を横目に『生みの苦しみ』を経験することになりました。初回のグループワーク前には「自分が作成している問題は取るに足らないものではないか」、「こんなに苦し紛れに作った問題は使えないのではないか」と不安を感じていました。

しかし、そのような心配は杞憂に終わりました（終わらせてくださいました。）私たちのグループは東京・大阪・九州・青森に勤めるメンバー４名と、ファシリテーター１名でした。メンバー全員が作問者の私よりも真摯に作問に向き合い、作問者が大事にしていることは何か、どうすればより良くなるかという視点で検討してくださいました。特に５問作成を目標としているところ、３問分しか案がなく、『問題登録遷延リスク状態』の私にとって、「この問題は、疾患の鑑別とケアに分けたらいいよ！」というメンバーの一声は、先輩助産師の助言により産婦をトイレ誘導した結果、一気に分娩が進み始めた時のような衝撃と、終わりが見えたという希望を感じさせてくれるものでした。

また、作問は各メンバーの教育現場の実情を踏まえた内容が多く、作成に至った経緯から課題となっていることを知ることができました。ディスカッションでは度々『助産師は何を判断するのか/どうケアするのか』が話題になり、その問いを通して先生方の助産観や教育観を伺い知ることができました。これは、教育経験の浅い私にとって、とても大きな財産となりました。

助産師であり教員である先生方の温かさに支えられ、無事に問題登録が遷延することなく活動を終了することができました。いつか学会等で活動を共にした先生方にお会した際には直接お礼を伝えたいと思っています。お会いできる日が楽しみです。

分娩介助モデル「ひろこ」
LM-114　標準価格 ¥550,000(税別)
側臥位、四つん這いを含む正常分娩時の介助演習が可能です。
会陰保護から、胎児・胎盤の観察など一連の演習ができます。
下肢があるため、臨床に近い状態での演習ができます。
外陰部は旧製品の物（内診モデル外陰部Ⅱ型、
分娩介助モデル用外陰部Ⅱ型、裂傷縫合モデル外陰部）
をそのまま使用することが可能です。
株式会社 高研
札幌営業所 TEL(011)221-5888 ／ 仙台営業所 TEL(022)393-5115
東京営業所 TEL(03)3816-3500 ／ 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 ／ 福岡営業所 TEL(092)263-5101
www.kokenmpc.co.jp
KOKEN

© 2023 KOKEN CO., LTD.

公益社団法人　全国助産師教育協議会

2022年度　第２回理事会次第
日　　時：2022年７月24日（日）13：00～15：15
場　　所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
　　小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
　　永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
　１）庶務・総務関係
　　①第１回理事会議事録（案）について
　　②第２回メール理事会議事録（案）について
　　③第３回メール理事会議事録（案）について
　　④第４回メール理事会議事録（案）について
　　⑤正会員退会について
　　⑥１養成校に助産師養成課程が複数ある場合の正会員入会について
　　⑦個人会員入会申込書の変更（案）について
　　⑧委員会活動上のアドバイザーの位置づけについて
　２）会計
　　①謝金の支払い額について
　　②特定費用準備資金について
　　③インターネット回線契約について
　３）助産師教育研究研修センター
　　①助産師教育研修研究センターの研修案内について
　４）将来構想委員会
　　①シミュレーション教育小委員会アドバイザーの謝金について
　　②「実習前助産OSCEに関する調査へのご協力のお願い」について
　５）広報・社会貢献委員会
　　①旧ホームページ削除について
Ⅲ．報告事項
　１）教育検討委員会
　　①助産師教育開始時における助産学生の看護技術到達度および実習状況に関する実態調査（経過報告）
　２）広報・社会貢献委員会
　　①広報・社会貢献委員会理事会資料について
　　②第２回広報・社会貢献委員会議事録について
　　③2022年度「全国助産師学生交流会＆ポスター発表会」企画案について
　３）助産師教育研修研究センター委員会
　　①助産師教育研修研究センター、研修の進捗状況について
　４）庶務・総務
　　①厚労省への２団体での要望書の提出について
　　②役員選挙について
　５）2022年度全国研修会の案内
　　①令和４年度全国研修会（案）について

2022年度　第３回理事会次第
日　　時：2022年９月25日（日）13：00～17：00
場　　所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
　　小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
　　永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
　１）庶務・総務関係
　　①第２回理事会議事録（案）について
　　②第５回メール理事会（案）について
　　③個人会員入会について
　　④個人会員申込書修正版（案）について
　　⑤委員会運営規定修正について
　　⑥正会員複数課程入会について
　　⑦役員（理事）選挙スケジュールについて
　　⑧地区研修会等のオンデマンド配信、アーカイブ化等について
　２）会計
　　①特定費用準備資金の取り扱い規定について
　　②事務局のパソコン不具合への対応について
　　③旅費規程の日当（200km未満の場合）について
　３）助産師教育研究研修センター
　　①ファーストステージとセカンドステージ研修の規定変更について
　　②臨地実習指導教員（非常勤）用の新コース設定に関する小委員会設置の件について
　４）組織強化委員会（国内・国外）
　　①令和４年度国際交流会（案）について
Ⅲ．報告事項
　１）教育検討員会
　　①２年間で教育する「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム2020年版」
　　カリキュラムモデル作成の経過報告について
　２）助産師教育研修研究センター
　　①助産師教育研究センター議事録について
　３）広報・社会貢献委員会
　　①広報・社会貢献委員会議事録について
　　・社会貢献活動計画について
　　・全国助産師学生対象事業の開催について
　　・危機対応時の講義・実習等、使用予定教材等の作成調整・検討中について
　　・災害時対応について
　　・広報活動について
　４）助産師教育研修研究センター委員会
　　①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
　５）庶務・総務
　　①2022年度自民党看護問題小委員会要望書提出について
　　②他機関のHPに全助協HPのバナーをリンクする申し出について
　６）2022年度全国研修会の進捗報告
　　①第48回全国助産師教育協議会全国研修会概要について

2022年度　第４回理事会次第
日　　時：2022年11月３日（木・祝）13：00～16：35
場　　所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
　　小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
　　永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
　１）庶務・総務関係
　　①第３回理事会議事録（案）について
　　②第６回メール理事会（案）について
　　第７回メール理事会（案）について
　　③個人会員入会について
　　④正会員複数課程入会方法について
　　⑤全国研修会担当地区における地区研修会の開催について
　　⑥パブリックコメント依頼用紙の様式について
　　⑦会員校のメリットについて（会員校代表者主催の研修会等の案内について）
　２）会計
　　①規程の日当（200km未満の場合）について
　　②九州・沖縄地区活動費の予算請求について
　３）教育検討員会
　　①2022年度助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査（案）について
Ⅲ．報告事項
　１）助産師教育研修研究センター
　　①助産師教育研究センター報告議事録について
　２）広報・社会貢献委員会
　　①広報・社会貢献委員会議事録について
　３）将来構想委員会
　　①将来構想委員会報告について
　４）助産師教育研修研究センター委員会
　　①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
　５）庶務・総務
　　①地区研修会オンデマンド配信希望調査結果について
　　②要望書（文科省、厚労省）の提出に向けて
　　③地区活動報告書提出依頼について
　　④韓国Gachon大学からの情報収集依頼について
　６）会計
　　①次年度計画（2023年度事業計画・予算案）の依頼について
　　②事務局のPC契約に関する進捗状況報告について
　　③２年間以上会費未納の個人会員について

2022年度　第５回理事会次第
日　　時：2022年11月27日（日）13：00～16：00
場　　所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
　　小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
　　永松　美雪（９名／９名）
出席監事：渡邊　典子（１名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
　１）庶務・総務関係
　　①第４回理事会議事録（案）について
　　②第８回メール理事会（案）について
　　③個人会員入会について
　　④正会員複数課程入会方法について
　　・「会員に関する規定」の変更（案）
　　・「正会員入会申込書」の変更（案）
　　・次年度会費徴収方法について
　　⑤パブリックコメント依頼用紙の様式修正（案）
　　⑥要望書について
　２）会計
　　①事務局のPC契約について

②旅費規程の改定について
3）助産師教育研修研究センター
①「助産実習に携わる非常勤教員向け研修」に関するニーズ調査票について
4）教育検討員会
①2022年度助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査（案）について
Ⅲ．報告事項
1）助産師教育研修研究センター
①助産師教育研究センター報告議事録について
2）広報・社会貢献委員会
①広報・社会貢献委員会議事録について
3）将来構想委員会
①将来構想委員会報告について
4）組織強化委員会（国内・国際）
①助産師教員キャリアラダー認証制度構築に向けた調査結果中間報告
5）助産師教育研修研究センター委員会
①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
6）庶務・総務関係
①役員選挙について

2022年度　第６回理事会次第
日　　時：2022年12月18日（日）13：00～17：00
場　　所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
1）庶務・総務関係
①第５回理事会議事録（案）について
②規程集の附則表現について
③役員選挙について
④次年度計画について
2）会計
①令和５年度事業計画・予算（案）について
②旅費規程の修正について
③事務局PCのリカバリーディスク代について
3）助産師教育研修研究センター
①助産実習に携わる非常勤教員研修のアンケートについて
4）教育検討委員会
①２年間教育で実施する「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム2020年版」
カリキュラムモデル（案）について
5）将来構想委員会
①評価者養成プログラムの参加者募集方法について
Ⅲ．報告事項
1）助産師教育研修研究センター
①助産師教育研修研究センター報告
2）広報・社会貢献委員会
①広報・社会貢献委員会報告
3）組織強化委員会（国内・国際）
①国際交流会について
4）助産師教育研修研究センター運営委員会
①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
5）庶務・総務関係
①要望書提出について

2022年度　第７回理事会次第
日　　時：2023年１月７日（土）14：00～16：00
場　　所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
1）庶務・総務関係
①第６回理事会議事録（案）について
②正会員退会について
③次年度計画について
④総会プログラムについて
⑤規程集附則表現について
⑥選挙投票システムについて
2）会計
①令和５年度事業計画・予算（案）について
Ⅲ．報告事項
1）助産師教育研修研究センター
①助産師教育研修研究センター報告
2）助産師教育研修研究センター運営委員会
①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
3）資格・専門能力委員会
①令和４年度助産師国家試験プール問題公募の啓発・応募促進事業
プール問題作成・登録協力活動報告について
4）組織強化委員会
①助産師教員キャリアラダー認証制度構築に向けた　調査結果の報告について
5）広報・社会貢献委員会
①ニュースレター第95号について
6）庶務・総務関係
①役員選挙進捗状況について
②開業助産師ラダー（案）意見書について

2022年度　第８回理事会議事次第
日　　時：2023年２月11日（土・祝）13：00～17：00
場　　所：全国助産師教育協議会会議室（WEB開催）
出席理事：渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美、小川久貴子
蛎崎奈津子、近藤　良子、永松　美雪（７名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶（代理渡邊浩子）
Ⅱ．審議事項
1）庶務・総務関係
①第７回理事会議事録（案）について
②2022年度地区長会議事録（案）について
③正会員退会について
④次年度事業計画（案）について
⑤規程等修正について
⑥役員選挙について
2）会計
①令和５年度事業計画・予算（案）について
②インボイス制度について
3）教育検討委員会
①助産師教育入学生への看護技術到達度・経験状況調査（案）について
4）組織強化委員会
①助産師教員キャリアラダーに必要な能力上位概要（案）
助産師教員キャリアラダーに必要な能力（案）について
助産師教員キャリアラダーに必要な能力に応じた各研修配置について
Ⅲ．報告事項
1）助産師教育研修研究センター
①助産師教育研修研究センター報告
②助産実習のための非常勤助手（非常勤実習担当教員）研修需要に関する調査について
2）助産師教育研修研究センター運営委員会
①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
3）教育検討委員会
①「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム2020年版」カリキュラムモデル
パブリックコメント募集の結果について
4）広報・社会貢献委員会
①委員会報告全体について
5）庶務・総務関係
①役員選挙進捗状況について
②総会プログラムについて
③複数課程入会校について
④開業助産師ラダー（案）意見書提出について
6）国内・国際委員会
①ICMパリ展示ブースについて

2022年度　第９回理事会次第
日　　時：2023年３月25日（土）13：00～17：10
場　　所：全国助産師教育協議会会議室（WEB開催）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
1）庶務・総務関係
①第８回理事会議事録（案）について
②第９回・第10回メール理事会議事録（案）について
③みなし決議に関する理事会議事録（案）について
④個人会員入会・正会員入会・退会について
⑤みなし決議に関する理事会の方法について
⑥複数課程入会について
・会員規程
・会員名簿改定について
⑦規程等修正について
・倫理規程
⑧役員選挙について
2）教育検討委員会
①「望ましい助産教育におけるコア・カリキュラム2020年度版」カリキュラムモデル
パブリックコメントへの回答（案）
②教育検討委員会活動費に係る補正予算について
3）将来構想委員会
①シミュレーションシナリオの公表方法について
4）組織強化委員会
①ICMポスターについて
Ⅲ．報告事項
1）助産師教育研修研究センター
①助産師教育研究研修センター報告

2）将来構想委員会
①共用試験としての実習前助産OSCEの全国展開を見据えた実態調査（案）とその発表について
②シミュレーションシナリオ（案）について
③「望ましい助産師教育2020年版」の実行するための参考となる教育実践例の「ペリネイタルケア」連載一覧について
④助産師教育に向けた課題整理のまとめ（案）
3）資格・専門能力委員会
①第106回助産師国家試験問題に関する分析担当からの意見について
4）広報・社会貢献委員会
①広報社会貢献委員会報告について
5）助産師教育研修研究センター運営委員会
①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
Ⅳ．その他
1）庶務・総務関係
①役員選挙結果について
2）会計
①特定費用準備資金の為の新規口座について
②研修事業費の積立について
3）会長より
①日本助産評価機構コンプライアンス委員選出
②日本助産評価機構での共用試験の事業化について

2023年度　第１回理事会次第
日　　時：2023年４月23日（日）13：00～16：10
場　　所：全国助産師教育協議会会議室（WEB開催）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
1）庶務・総務関係
①第９回理事会議事録（案）について
②個人会員入会・正会員入会・退会について
課程変更校について
③理事選挙について（理事会推薦）について
④規程改定（案）について
・会員規程（案）
・倫理規程（案）
・選挙管理委員会規程（案）
⑤第37回日本助産学会学術集会、全助協企画について
⑥日本助産評価機構コンプライアンス委員選出
2）教育検討委員会
①「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム2020年版」カリキュラムモデル
パブリックコメントへの回答案およびカリキュラムモデル最終版について
②第37回日本助産学会学術集会一般演題発表の抄録（案）について
③「助産政策論」シラバス（案）：教育検討小委員会について
3）会計
①事務局のコピー機とPCの購入について
②２年以上会費未納の個人会員の対応ついて
Ⅲ．報告事項
1）助産師教育研修研究センター
①助産師教育研究研修センター運営委員会報告
2）教育検討委員会
①2022年度助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査について
3）広報・社会貢献委員会
①広報社会貢献委員会報告について
4）将来構想委員会
①将来構想委員会報告について
5）資格・専門能力委員会
①第106回助産師国家試験の採点除外となった問題の解説について
6）庶務総務
①各委員会、地区の活動報告と全国研修会の報告
7）助産師教育研修研究センター委員会
①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
Ⅳ．その他
1）庶務・総務関係
①総会プログラムについて

2023年度　第２回理事会次第
日　　時：2023年５月20日（土）13：00～16：00
場　　所：全国助産師教育協議会会議室（WEB開催）
出席理事：村上　明美、渡邊　浩子、葉久　真理、入山　茂美
小川久貴子、蛎崎奈津子、近藤　良子、高田　昌代
永松　美雪（９名／９名）
出席監事：井村　真澄、渡邊　典子（２名／２名）
出席幹事：青柳　優子、藤井　宏子（２名／２名）
陪　　席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第
Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．審議事項
1）庶務・総務関係
①第１回理事会議事録（案）について
②個人会員入会・正会員入会・退会について
③規程等作成／改定（案）について
・倫理規程における調査委員会に関する内規（案）
・選挙管理委員会規程（案）について
④第37回日本助産学会学術集会への全助協企画
⑤総会資料について
2）助産師教育研究研修センター運営委員会
①2022年度助産師教育研究研修センター報告書
3）資格・専門能力委員会
①令和５年度助産師国家試験プール問題公募の啓発・応募促進事業に関する活動計画（案）について
4）会計
①2022年度決算及び監査報告について
②2023年度収支予算書について
③教育環境基盤積立金について
Ⅲ．報告事項
1）助産師教育研究研修センター運営委員会
①助産師教育研究研修センター運営委員会報告
2）広報・社会貢献委員会
①広報社会貢献委員会報告について
3）将来構想委員会
①分娩期のシミュレーション教育作成について
4）助産師教育研修研究センター委員会
①助産師教育研修研究センターの進捗状況について
5）会計
①活動費の先払いについての報告
Ⅳ．その他
1）日本助産機構の機関紙「アドバンス助産師」Vol.13の教育情報の執筆について

編集後記

今年の夏は、例年を上回る猛暑が続きましたが、ようやく秋のそよ風を感じる季節となりました。コロナ禍は停滞し、長期に渡る感染拡大の予防対策は緩和されてきました。しかし近年は、孤独な出産を回避する一選択として、麻酔分娩のニーズが急増し続けています。さらに、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアの推進も求められています。助産師には、自然分娩のみならず、多職種と連携を図りながら専門性を発揮していくことが求められる時代となりました。今度は、社会のニーズに応えながら助産師の専門性を発揮できるような助産師教育の在り方を追及していかなければならないと感じています。

本年度から、広報・社会貢献委員は８名体制でスタート致しました。今後とも、このニュースレターを通じて会員校の皆様と一緒に教育活動・研究活動の質の向上を目指していきたい所存でございます。

望月千夏子（帝京大学　助産学専攻科）
井上　明子（愛媛県立医療技術大学　助産学専攻科）
北村万由美（広島国際大学　助産学専攻科）
坂田　清美（帝京平成大学　ヒューマンケア学部　看護学科）
近藤　良子（日本赤十字社助産師学校）

●助産師教育　NEWS LETTER　No.95
2023年10月１日
発行人　公益社団法人　全国助産師教育協議会事務局
Japan Society of Midwifery Education（J.S.M.E）
会長　葉久　真理
〒160-0003
東京都新宿区四谷本塩町7-9　四谷ニューマンション203号
TEL　03-6384-2075　FAX　03-6384-2076
（火・木・金　事務局在室）
http://www.zenjomid.org/
E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp
※事務局は令和2年2月1日に移転しました。
全国助産師教育協議会ＱＲコード
http://www.zenjomid.org/
バーコードリーダーで読み取ってください